

まえがき

本書は、私たちが出版する第4冊目の国際金融論のテキストである。第1冊目のテキストは『国際金融のすべて』と題して1999年に出版した。その後、『現代国際金融—構図と解明』と書名を変更して第1版を2006年、第2版を2010年に出版した。今回、版を改めたのは国際金融をめぐる状況が大きく変化してきたことによる。以下の事情などが主要なものである。

第1にIMFマニュアルの変更に伴い各国とも国際収支表の公表形式が変わったこと、第2にリーマンショック後のアメリカにおいて非伝統的金融政策(QE政策)が採用され、それからの「出口政策」が日程にのぼり、それが国際マネーフローに変化を及ぼしかねないこと、さらに、原油価格の動向、中国の経済減速・ドル準備のあり方によって米経常赤字のファイナンスが影響を受けていること、第3にギリシャ等の経済危機がユーロの状況に深刻な影響を与えていること、第4に人民元の「国際化」が注目され、それへの評価が必要になったこと、また、「中国マネー」が新興諸国・途上国への援助・運用となって、それが途上国の経済・金融、ひいては世界銀行、アジア開発銀行、国際政治面にも影響を与え、現在のドル体制の変容が余儀なくされかねないこと、第5に日本の貿易収支の赤字化、経常収支黒字額の減少、アベノミクスによる円相場と対日証券投資への変化についての論述が求められることなどである。

以上の新たな諸課題の論究が必要になったことに加え、紙幅の制約から編集方針に変更が生じ、あわせて執筆者の変更も必要になっ

た。これまでの執筆者の皆さんには心から御礼を申し上げたい。

さて、編集方針の変更は大きくは以下である。①これまでは2つの章に区分していたのを1つの章にまとめたり、章を簡略化したり、章を割愛したり、章を新規に設定したりなど、諸章の大きな改変がある。②前回までの版では、第I編として「基礎」的な諸章を配置し、第II編で現代の諸問題を論じてきたが、今回の改訂では編の構成を取りやめ、「基礎」的な章に当たる第1章から第3章においても現代的な諸問題に言及がなされている。

また、紙幅の制限のために各章の論述を切り詰める必要があったことから十分に記述できなかつた部分もあろう。さらに、途上国債務危機、アジア通貨危機などの今では現代的な課題としては扱いきれない諸問題については基本的な記述となっており、戦後の国際通貨制度の変遷などの歴史的な記述は大部分省かれている。それらについては第2版までの各章も参考されたい。最後に、各章の執筆は2015年10月末であるので、それ以降の注目すべき諸事態の進行については校正時に最小限の加筆がなされているにすぎない。

なお、用語などの表記の統一および略語一覧の作成については、立教大学大学院生の石田周君に基礎作業をお願いした。また、前回までの版では法律文化社の小西英央氏に編集作業を担当していただいたが、今回は上田哲平氏が担当された。これらの氏へ改めて謝意を表したい。

2015年12月

編者を代表して 奥田 宏司